

1 役割

県下全海域の漁場環境の監視と豊後水道（宇和海）の水産資源の評価及び養殖業を中心とした宇和海の水産業の振興に貢献する調査・研究

2 課題

- (1) 漁業生産の場である『漁場環境や基礎生産の変動監視』
- (2) 水産資源の適正な管理による『持続的な漁業生産の確保』
- (3) 経営の多角化と産地競争力の強化による『儲かる漁業・養殖業の確立』

3 研究テーマ

(1) 漁場環境の監視と水産資源の評価

ア 漁海況情報の収集と発信

水産試験船「よしゅう」が毎月、県下全海域（宇和海・伊予灘・燧灘）で収集した海洋観測データ及び魚群分布の状況並びに宇和海沿岸に配備した自動観測ブイによる水温データ、赤潮の発生状況等をホームページで即時配信し、漁業者の利便性向上を図っている。



水産試験船「よしゅう」
H13竣工(77トン、882 kW)



水温自動観測装置



宇和海海水温情報の発信
(愛媛大学と共同運用)

イ 水産資源の動向把握

宇和海の漁業資源について、発生量、漁獲量、体長、年齢組成等の調査をもとに、国と協力して資源量や資源水準等の評価を行い、漁況予報として漁業者に提供している。

水揚調査・生物調査

宇和海：マアジ、イワシ類、サバ類、ブリ類、カツオ、イサキ、ハモ
マダイ、シロアマダイ、タチウオ、トラフグ、サワラ、ホタルジャコ など



マアジ幼魚

(2) 水産物の安定供給とブランド品種の育成

ア 養殖用・放流用種苗の供給

安定的な養殖生産・漁業生産を図るため、有用魚介類の種苗を生産して、漁業者等に有償配付している。

[令和4年度]

マダイ	(80mm)	17万4千尾	(養殖・放流用)
マハタ	(100mm)	9万1千尾	(養殖用)
クエ	(100mm)	1万3千尾	(養殖用)
クルマエビ	(35mm)	200万4千尾	(放流用)
アコヤガイ	(2mm)	246万5千個	(養殖用：ピース貝)
ブリ	(80mm)	4万2千尾	(養殖用)



種苗生産棟(R4整備)



マダイ(県魚)



マハタ



クエ



ブリ



アコヤガイ

イ 魚類の種苗生産技術及び養殖技術の開発

新しい養殖対象種として期待されるスマ（「伊予の媛貴海」や「媛スマ」）の種苗生産技術開発及び養殖実証試験、ブリ優良家系の育種技術開発を進めている。



スマ



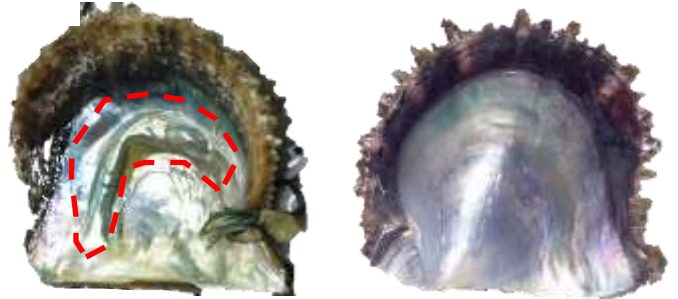
完全養殖



スマ水槽(R1整備)

ウ アコヤガイへい死対策

アコヤガイ異常死の原因は感染症(新種のビルナウイルス)であることが明らかとなっているが、その対策が確立されていないことから、被害を軽減する技術の開発やウイルス感染に強い貝づくりに取り組んでいる。



アコヤガイ貝殻内面(左:異常貝、右:正常貝)
左の異常貝には貝殻内面に段が見られる

エ 養殖魚介類の疾病対策

疾病の発生による養殖被害を軽減するため、疾病の診断・対応指導を行っている。感染症の抑制、原因不明の疾患への対応策、治療効果の向上に関する研究を行っている。ワクチンの開発と普及を進め、生産コストの低減と安全な魚介類の生産に寄与している。

[令和4年度]

魚病診断件数	754 件
巡回指導回数	141 回
ワクチン指導書交付	350 件
輸出衛生証明書発行	797 件
放射能検査	294 件



ブリ稚魚へのワクチンの接種

(3) 革新技术による生産力の強化と6次産業化の促進

ア 養魚用飼料の開発

魚類養殖の生産コストの削減を目指して、魚粉の割合を削減(50%→20%)しても従来と同様に成長する飼料を開発するとともに、低魚粉で成長する系統を育種により作出し現場への普及を図っている。



低魚粉飼料で飼育したマダイ

イ 養殖魚の高付加価値化

「みかんフィッシュ」の生産技術を開発(特許取得)し、現場への普及を図っている。



チョコレートに含まれるカカオポリフェノールを出荷前に与えることにより、血合筋の変色(褐変)を大幅に改善した「チョコブリ」の生産技術を開発した。

